

2023年11月27日

ウッドデザイン愛知・岐阜視察ツアー報告

一般社団法人日本ウッドデザイン協会
事務局

【開催概要】

内 容:愛知県、岐阜県におけるウッドデザイン賞受賞作品他の視察

日 程:2023年10月26日(木)~27日(金)

主な視察先:アーティストリー、KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE、
メディアコスモス、森林文化アカデミー、柏木工、Cup of tea ensemble、
ヒダクマ・西野製材所

参加者:20名

企画運営:ビジネスマッチング部会、広報普及啓発部会、ウッドデザイン賞部会

【スケジュール】

月 日	時 間	旅 程
10月26日		
	9:20	JR名古屋駅集合
	10:00~11:00	アーティストリー 説明付き視察
	12:00~13:20	KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE 説明付き視察
	14:00~14:50	メディアコスモス 説明付き視察
	15:30~17:00	森林文化アカデミー 説明付き視察
	17:10~17:30	うだつの上がる町並み 視察
10月27日		
	7:20	ホテル発
	9:00~10:30	柏木工 説明付き視察
	11:00~11:30	Cup of tea ensemble 説明付き視察
	13:00~15:30	ヒダクマ・西野製作所 説明付き視察
	17:50	JR岐阜羽島駅一部解散
	18:40	JR名古屋駅解散

【視察先】

1. アーティストリー [アーティストリー](#)

NARA プロジェクト・わの休憩所

ウッドデザイン賞 2021年 受賞作品

コロナ禍の中、企業の休憩所を全国7都市の建築系学生とオンラインで繋がり、設計から実際に建てるという日本初のオンライン産学連携プロジェクト。

デジタル3D技術によって作られた日本でも前例のない有機的な曲面の休憩所は、新しい木材表現の可能性を示すとともに、利用者に、より豊かな木材の魅力を与えてくれる。

大西営業開発部 部長他、3班にわかれてご説明いただいた。

↓まず、「わの休憩所」から見学。5軸CNCの技術とアーティストリーの職人さんたちの技を駆使した、曲線が美しいベンチ。
屋外に設置され2年半経過しているが、朽ちることなく、むしろいい色合いになっている。



↑本社内のひと部屋の天井。
「わの休憩所」に魅了されて入社した社員がデザインした、立体的なデザインと曲線は、どの角度から見ても美しい。

オーダーメイドの家具が出来上がるまでの過程、品質及び工程・工数管理、社員教育、また整理整頓された環境について等、社員が一丸となって取り組んでいる様子が素晴らしかった。

2. KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE [KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE](#)

ウッドデザイン賞 2021年 優秀賞(林野庁長官賞)受賞作品

竣工 2021年

設計 goboc 設計事務所、TAB

施工 井上工務店

他の主な受賞歴 2021年

キッズデザイン賞受賞

岐阜県各務原市が市民公園周辺を「森の中の賑わいのある新しいまちの顔」にすべく Park-PFI 制度を活用し生まれた、子どもたちのための全天候型屋内施設。窓から吹き抜ける遊び場で、子どもたちはダイナミックに体を動かし、大人はくつろぐ、そんな公園の新しい使い方を提案。建物や遊具は岐阜県産木材を使用。



飛騨五木さん、設計のTABさんにご説明いただいた。



学びの森と市民公園をつなぐ架け橋としてブリッジという名前を付けたとのこと。

「遊び創造 Labo」は、雨でも子供たちが走り回れる、全天候型の屋内遊び場。

2階では、アートなワークショップも頻繁に開催されており、子供と一緒に大人も楽しめる。

3. メディアコスモス [みんなの森ぎふメディアコスモス](#) ウッドデザイン賞 2022年優秀賞(林野庁長官賞)受賞作品

竣工 2015年

設計 伊東豊雄建築設計事務所

施工 戸田建設・大日本土木・市川工務店・雛屋建設社 JV

他の主な受賞歴

ライブラリーオブザイヤー2022 大賞

「知の拠点」の役割を担う市立中央図書館、「絆の拠点」となる市民活動交流センター、多文化交流プラザ及び「文化の拠点」となる展示ギャラリー等からなる複合文化施設。

伊東豊雄建築設計事務所設計の木造建築。建築愛好家に人気。

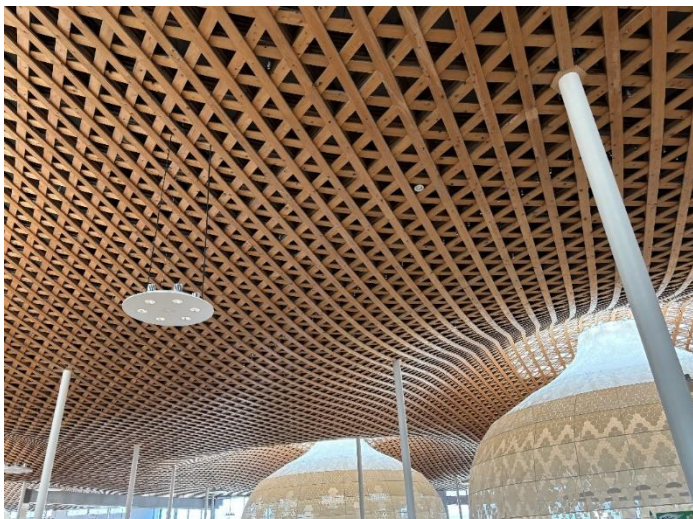
戸田建設様(当時の施工担当者様)にご案内いただいた。



↓グローブの案内板でお目当てを探す。



↑11か所のエリア毎に吊り下げられている「グローブ」。上部のトップライトからの自然光をおだやかに室内に拡散させる。夜には、照明のシェードとなる。ポリエステル製の糸を3方向の軸で織り、反射・透過率などを調整する薄い布地が貼られている。



↑波打つ木造格子屋根は、接着重ね梁となっている。岐阜県産のヒノキを800㎡使用。合板を、現場で一枚ずつ、7層に重ねて施工したもの。軽量化のためとはいえ、天候の良い日ばかりではなく、施工にはとても苦勞されたとのこと。

4. 森林文化アカデミー [森林文化アカデミー](#)

アバマキ学校机プロジェクト

ウッドデザイン賞 2015年 優秀賞(林野庁長官賞)受賞作品

自力建設プロジェクト

ウッドデザイン賞 2016年 受賞作品

すべての人と森をつなげる morinos

ウッドデザイン賞 2021年 奨励賞(審査委員長賞)受賞作品

morinos

ウッドデザイン賞 2021年 受賞作品

木立のこみち

ウッドデザイン賞 2022年 受賞作品

morinos

子どもから大人までが森林に親しみ、つながりを体験できる森林環境教育の拠点施設。木材は建築から家具に至るまで岐阜県産材100%でV字丸太柱は敷地内の100年生ヒノキを使用。基本設計から現場監理まで学生、教員が関わり、岐阜県内の設計者、施工者のチームで竣工した。随所に様々な木材の個性が見れる建築。



辻教授に案内いただいた。

アカデミーには、2つの専修教育部門がある。どちらの専修教育部門も、将来的に指導的役割を担う専門家を育成している。



↑毎年、新入生が、自力建設プロジェクトとして、決められた設計条件の中で、毎年1棟を設計・施工する。

「木立のこみち」は、ウッドデザイン賞を受賞。

↑面格子耐力壁は、耐震性能に優れた木質構造となっている。

5. うだつの上がる町並み

国の伝統的建造物群保存地区に選定されたうだつの町並み。「うだつ」とは、屋根の両端を一段高くして火災の類焼を防ぐために造られた防火壁のことで、裕福な家しか「うだつ」を造ることができなかったため、庶民の願望から「うだつを上げる・うだつが上がらない」の言葉が出来た。美濃市は、江戸時代の承認の町で、この「うだつ」が多く残っている。



←美濃和紙で作成したあかりのアートが、うだつの上がる町並みに映えて美しい。

6. 柏木工

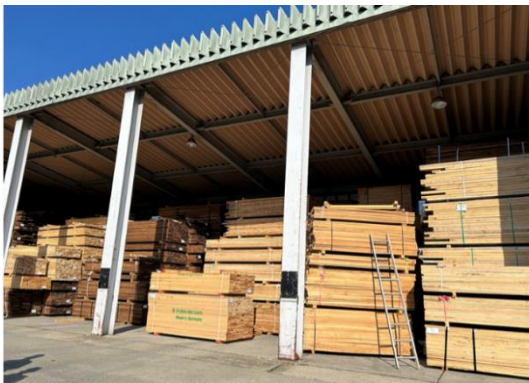
創業 1943 年老舗家具メーカー。全て受注生産方式。

曲木の技術に長けており、竹の曲木を手がけている数少ない企業。生産管理能力に定評があり、トヨタの生産方式を早くから導入している。

伝統を継承しながらも現代のモノづくりの手法や考え方を取り入れ、進化し続けている。端材は椅子の背や壁パネルに有効活用するなど、無駄なく木を活用している姿勢にも好感がもてる。洗練されたデザインにより、数多くの作品でグッドデザイン賞受賞。



工場とショールムを案内いただいた。工場内には元気な挨拶が飛び交い活気を感じる。椅子ひとつとっても、数多くのパーツを丁寧に作業し、作り上げられる。圧力と熱を加えて成形して完成する家具の曲線は、職人技が光る。



7. Cup of tea ensemble 宿泊施設

ウッドデザイン賞 2021年受賞作品

竣工 2021年1月

設計 Kraft Architects./施工 田中工務店

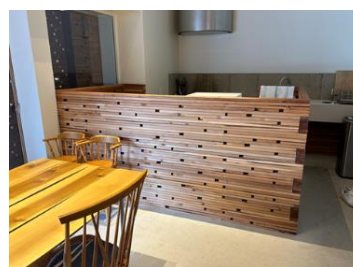
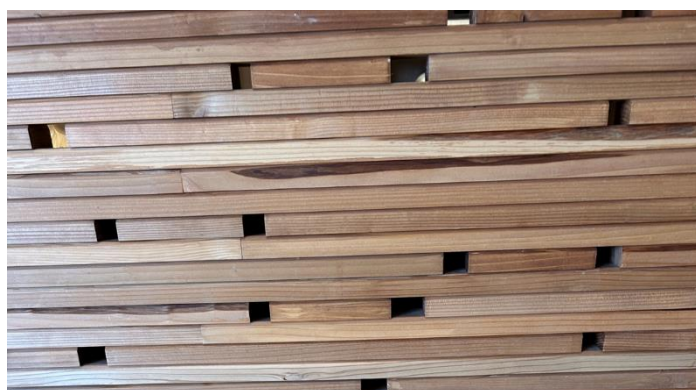
パートナー 飛騨産業

元銀行の建物を転用したホテル。全部屋8室の小さな宿であり、持続可能なまちづくり文化を地域内外へ発信するハブ施設。身の回りにある豊かな森林資源から新たな価値を見出していくという考え方のもと、「あるものを活かす」をコンセプトに杉間伐材、広葉樹間伐材、端材、中古品リペアの切り口で地域内資源の内外装に新たな活用の可能性を提案している。本来であれば光が当てられることなく破棄されることが多い素材も、飛騨産業の技術力のもと優れたデザイン性と居心地が共存する空間を実現している。



↓木と木の間に隙間を開ける工夫でスタイリッシュなデザインに

HP より

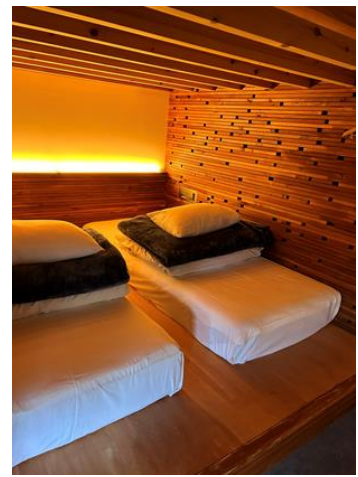


← 設計図どおりに
重ねられている



↑ ロビーはくつろげる木質空間

HPより



↑ 客室は cozy な木を多用した空間。



← 端材を使用した机

8. ヒダクマ(@森の端オフィス@製材所土場・貯木場)

会社名:株式会社飛驒の森でクマは踊る(通称「ヒダクマ」)

事業概要:木製品加工販売事業、カフェ・ホテル運営

設立日:2015年5月25日

株主:株式会社ロフトワーク(54%)飛驒市(32.5%)株式会社トビムシ(13.5%)

飛驒市は面積の94%が森林。そのうち広葉樹の割合は68%。活用されていない無数の広葉樹を資源として生かしたまちづくりをしよう、そんな飛驒市の想いから誕生したヒダクマは飛驒の広葉樹に多い曲った木や径の細い木々を活かした家具づくりや建築など、森のコーディネーターとして広葉樹に関して多岐にわたる活動を行う。

飛驒市役所のご担当者から広葉樹のまちづくりの概要説明、[広葉樹活用コンシェルジュ](#)の及川氏より広葉樹の新たな価値の創造について、ヒダクマ様から、独自の広葉樹サプライチェーンについて説明いただいた。飛驒産業も協力し、広葉樹の特徴を最大限生かす企画提案で、都内オフィスにも広葉樹活用の事例が増えてきている。



HPより



↑短期乾燥プロジェクトの現場(実施主体は飛驒市広葉樹活用推進コンソーシアム。)
乾燥プログラム(応力)と感想コントロールを検証中。温水式中温乾燥機。熱源は薪ボイラー。
ナラやブナで実験をしている。



↑形や色がバラバラの広葉樹。樹種も多様なため、大量生産には向かない。節や曲がりも多い。

以 上